

## 当院における PCI 中の ACT 測定方法の検討

<sup>1</sup>名張市立病院、<sup>2</sup>名張市立病院、<sup>3</sup>名張市立病院松田 美由貴<sup>1</sup>、藤原 慎太郎<sup>1</sup>、古屋 博之<sup>1</sup>、岩口 行廣<sup>1</sup>、加藤 成貴<sup>2</sup>、佐藤 雄一<sup>2</sup>、片岡 一明<sup>3</sup>

【目的】当院での PCI 中の ACT 測定方法は、元来テストチューブ型を使用してきたが、2年前より当院でもカートリッジ型を導入し、高容量用カートリッジ：JACT+を臨床使用してきた。しかし、臨床使用上想定される ACT 値と実測 ACT 値との乖離を認め、再採血を要した症例をたびたび経験した。そこで今回、その原因究明ならびに、測定機種、測定方法の違いによる ACT 値の比較検討を行ったので報告する。【方法】PCI 施行時の ACT を、ヘパリン投与 3～5 分後、以降 30 分毎に測定。測定機種はいずれも ITC 社製、テストチューブ型：ヘモクロン 401、カートリッジ型：ヘモクロン JR シグニチャー+。低用量用カートリッジ：JACT-LR と、高用量用カートリッジ：JACT+の 2 種類を比較した。【結果】JACT+はテストチューブ型に対し、メーカーの呈示する誤差の約 2 倍もの誤差を生じ、有意な相関関係も認められなかった。また、JACT-LR では、しばしば Out of Range-High となり測定できないことがあった。【結語】PCI 中において、当院のヘパリン使用プロトコールでは、高容量用カートリッジ JACT+は適正血中濃度を下回る可能性が高く、PCI 中の ACT control には適さない（メーカーも推奨していない）。JACT-LR では、しばしば Out of Range-High となり、測定限界の 400 秒を超え、測定できない可能性がある。以上のことから、以後当院ではカートリッジは低用量用 JACT-LR を使用し、Out of Range-Hi となり測定不能な場合は、術野より採血する場合ヘパリン加生食の混入の可能性も視野に再採血し、テストチューブ型で再検する事とした。